

事務事業名		地域資源活用交流促進事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間 ☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度【計画期間】 平成 27 年度～ 29 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	02 地域特性を生かした農林業の振興			
	基本事業名	02 農業経営の安定支援			
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 02 01 06 00 事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	
所属	部課名	企画政策部企画調整課		全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 1,836 地方債 その他 一般財源 919 事業費計(A) 2,755 正規職員従事人数 5 延べ業務時間 520 人件費計(B) 2,080 トータルコスト(A)+(B) 4,835	
	課長名	新沼徹			
	係名	企画係	電話 0192-27-3111		
	担当者	古澤純悦	内線 229		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・都市部の交流のある大学の学生及び市内の小中高生と連携し、地域資源である椿を利用した体験活動の場を提供し、地元企業、農業関係者との交流を図る。市民と一緒に様々な活動を実施しながら、郷土の魅力を感じ、また、感じた魅力をさらに他の市民に伝えてもらうことで、市民が故郷の魅力を再発見し、さらには、当市の地域活性化を図る。 ・本事業(県補助金)に係る主な手続は以下のとおり。 ①事業申請(市→振興局) ②事業採択(振興局→市) ③交付申請書の提出(市→振興局) ④交付決定(振興局→市) ⑤補助金請求書の提出 ⑥完了検査への対応					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

- ・小中学校での椿学習プログラムの実施(一部、都市部大学生が企画、実施支援を行った。)
- ・都市部大学生と連携し、椿の利活用促進のため、椿実拾いと呼びかけるチラシを作成し、PRを実施したほか、椿利活用ガイドブックを作成した。
- ・都市部大学生と連携し、気仙大工技術を活用した木製品モデルを製作した。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

- ・県補助金(地域経営推進費)を活用しての本事業は、平成29年度で終了。
- ・小中学校を対象として実施してきた椿学習は、学校主体で取り組むプログラムとして継続実施。
- ・椿をテーマとした都市部大学との交流も引き続き実施。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

事業に参加した市内小中学校、中学校、大学等

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

地域資源である椿を介した交流が図られる。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

- ・地域の魅力を再発見する。
- ・地域資源である椿の利活用が図られる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 体験活動の実施回数	回
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 事業に参加した市内小中学校、大学	校
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 当該事業による交流人数(延べ)	人
シ	
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円					
		都道府県支出金	千 円	700	763	373			
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円	350	382	187			
		事業費計 (A)	千 円	1,050	1,145	560	0	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	1			
		延べ業務時間	時 間	200	200	120			
		人件費計 (B)	千 円	800	800	480	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	1,850	1,945	1,040	0	0	0
⑤活動指標	ア	回	8	29	18				
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	校	5	8	5				
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	人	160	557	506				
	シ								
	ス								

事務事業ID	1758	事務事業名	地域資源活用交流促進事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 豊かな自然のもと、山や里には未利用・低利用の資源が多く眠っており、近年こうした資源を活用した活動が、民間を中心に少しずつ芽を出している状況にあった。そうした中、「椿」をテーマに、交流のある都市部の学生や市内の小中高生に地域資源の魅力を発見してもらい、その魅力を市民に伝え、当市の地域活性化に資することを目的に事業に取り組んだもの。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 平成27年度から、市の花・椿を利活用し、地域のブランド向上やコミュニティの再構築につなげようと、国の復興支援員制度を活用し、椿利活用推進員を採用した。
 また、当市における椿の里づくりのため「椿の里づくり行動指針」を新たに策定し、その推進を図ることとしている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 ・当該事業に協力した学生からは、当市の様々な地域性を知る貴重な経験になった等の声が寄せられている。
 ・当該事業に協力した市民からは、自分たちが採集に関与した椿の実を活用した椿油等の商品化を望む声が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 地域資源である椿を活用した取組は、地域特性を生かした農林業の振興に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 市民には「椿の里」としての認識、また、椿を活用したいという意識はあるものの、個別かつ短期的な取組にとどまっている。椿を地域資源ととらえ、椿を利活用する枠組みを構築するため、市が関与する必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 地域資源である椿を活用した体験、交流等により、地域の魅力を再発見するものであり、対象・意図とも妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 関与していない小中学校や地域が多いことから、成果向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響無 ⇒【理由】 ☐ 影響有 ⇒【その内容】 本事業で小中学校を対象として実施してきた椿学習は、学校主体で取り組むプログラムとして継続して実施するほか、椿をテーマとした都市部大学生との交流活動も継続実施されることとなっている。本事業としては、平成29年度で区切りとなるが、これまで積み重ねてきた、地域資源を活用した取組・交流は、今後にもつながるものとなっている。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 本事業としては、平成29年度で区切りとなるが、本事業でこれまで小中学校を対象として実施してきた椿学習は、学校主体で取り組むプログラムとして継続して実施するほか、椿をテーマとした都市部大学生との交流活動も継続実施されることとなっており、いずれも自走化が図られることとなっている。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 本事業で小中学校を対象として実施してきた椿学習は、学校主体で取り組むプログラムとして継続して実施するほか、椿をテーマとした都市部大学生との交流活動も継続実施されることとなっており、引き続き、調整等の業務は残るものの、取組を続ける中で、関係団体との連携が深まっており、調整に要する時間の削減も図られている。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 椿をテーマとした体験学習をはじめ、取り組むにあたっては広く希望を募っており、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性 1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	(2) 改革・改善による期待成果 左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持				低下		×	×
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上維持																	
	低下		×	×														
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 県補助(地域経営推進費)事業として実施してきた本事業は、3カ年目となる平成29年度で区切りとなるが、これまで積み重ねてきた、地域資源を活用した取組・交流は、今後にもつながるものとなっている。																		

4 課長等意見

(1) 今後の方向性 1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容 市の花である椿への関心の高まりや利活用の可能性の周知に関しては、一定の成果があったものと認識している。 市民参画の促進が、本事業のみならず、後継の取組においても大きな課題である。
--	--